

Technical news

Vol.6



詳報、第4回フットボール カンファレンス

JFA指導者養成事業

GKプロジェクト活動報告

TSG報告～全国高校選手権

年代別指導指針⑥～
世界トップ10を目指して!

THE FOOTBALL
CONFERENCE JAPAN
2005



財団法人 日本サッカー協会



え、継続的に取り組むよう指導した。キックングやキャッチングなど基本技術のレベルアップを図り、いつでもどんな状況下でもしっかりとした技術を発揮できるように継続的にトレーニングを続けるように考えられる。

にトレーニングを続けるように指導した。キックングやキャッチングなど基本技術のレベルアップを図り、いつでもどんな状況下でもしっかりとした技術を発揮できるように継続的にトレーニングを続けるように考えられる。

くことが必要であると考えられる。

*関連記事：本誌18ページ

一層のレベルの向上につながっていくと思われ。

今回観察を行い、地域のコーチの方々の情報によりハード面やソフト面でうまく協力し合い、さらに広く細かくつながりあって、発展している状況を確認することができた。今回参加したコーチの中には熊本市内だけでなく、佐賀県、福岡県、鹿児島県といった近隣の県からの参加もあり、九州全域のネットワークへと広がっている。また、スクールの中心となっていて活動しているスタットの、実際に近隣の県でスクールの運営を、九州の中でもいくつかの拠点が確立している。

この熊本県GKスクールのスタイルは、全国での今後の展開において大変参考になるスタイルであった。今回の観察に対する各スタットの方々のご協力と配慮に感謝し、同GKスクールの今後のさらなる発展を願って終わりたい。

熊本GKスクール視察報告

山中亮 (GKプロジェクト/サンフレッチャ広島)

1.はじめに

熊本県ゴールキーパー・スクールの運営村公康氏（現浦和レッズ）により立ち上げられ、大津市を拠点として、地域に根ざした活動が展開されている。このスクールの経緯、地元の大津高校、さらには各年代カテゴリーの代表選手へとプレーヤーも育成されてきている現状にある。そこで、実際に本活動に参加し、活動の内容などの報告を行うことを目的とし、2004年12月6日に本活動（大津の森陸上競技場）へ参加させていただいた。

情熱がひしひしと伝わってきた。プレーヤーは、基本技術の習得をベータにしながら、それぞれのトレーニングに取り組んでいる様子が見え、うかがえた。基本姿勢、キャッチ、コミュニケーションなどはどのプレーヤーも習得しつつある状況であった。

今回、自分自身も「ゲームに関わる」ことをテーマとしたトレーニングをさせてもらった。U-14のカテゴリーを担当したが、ジュニアストットの場面で、各プレーヤーとも基本技術をしつかりと習得しつつあるレベルであった。コミュニケーションやコーチングにおいて、自分で判断し伝えようとする習慣も高いレベルにあった。ゴール前のシチュエーション、トレーニングでは、比較的問題なくトレーニングが行えた。ゲームの状況を含むトレーニングにおいて、スターティング・ポジション、位置・姿勢についてレベルの差が見られ、きわどいシチュエートをストッピングする場面もあれば、逆に簡単なシュートを決められてしまう場面が出てくるなど、状況を観ること、良い準備をすることについて改善点があった。

2.活動内容

⑥受益者負担による会費制
⑦トレーニングについて
⑧相互によるトレーニング形態（1回のトレーニングでゲームGKを必ず経験する）
⑨シュートストップ、ブレイクアウェイ、クロスを中心としたトレーニングとゲーム
⑩テーマについては発展性を持ち、参加者の段階に合わせて実施
⑪前回までのトレーニングと比べて、各ゲームの中から抽出させたテーマを設定し、MT-TMのトレーニング形態を構築
⑫対象およびスタット
○U-12：20名程度/U-14：20名程度/U-16：20名程度/U-18：15名程度
⑬活動形態
⑭年間を通して、4回/月程度を常態に使用（3カテゴリーで1面を使用）
⑮地域の指導者が中心となり、プログラムを計画して展開
⑯スパルターメーカーによるサポート（物など）
⑰地域の高校生のサポート（実際の指導など）

3.まとめ

熊本GKスクールが始まる毎週金曜日の午後7時ごろには、スクールの行われ大津の森陸上競技場にプレーヤーやスタッフが集まってくる。この様子を目にしただけでも、熊本県、地域のパワーや誇りを感じる。トレーニングにおいても、いつものことのように担当コーチで当日のトレーニングについてディスカッションを行い、オープン・マインドでトレーニングが構築され行われている。このような活動を毎週金曜日に週1回行うパワーの源である、地域の

熊本市内だけでなく、佐賀県、福岡県、鹿児島県といった近隣の県からの参加もあり、九州全域のネットワークへと広がっている。また、スクールの中心となっていて活動しているスタットの、実際に近隣の県でスクールの運営を、九州の中でもいくつかの拠点が確立している。

は、プレーヤーに入る動きでわかる。経験あるGKは、ステップという第1歩目が違う。身体的なバランスを保っている。つまり、スピードが状況に応じて変えられている。ドリフトは、守備エリアが広い。GKには失点しないための相対する大きな2つの局面がある。ひとつは1回で大きなミスをする。もうひとつは、身体のこと、これは次の味方の攻撃に繋がる。もうひとつは、防衛でも良いからボールをぶつけて防ぐ。しかし、相手の攻撃は続くと考えられる。リバウンドをついていくだけ。外に出したとしてもセットプレーがある。この二大局面を見れば良いGKかどうか、経験あるGKかどうかすぐわかる。この切り替えがわからないGK、つまりは自分が1回で確実にキャッチできるボール、範囲を熟知しているGKでなければ経験があるとは言えない。このように、良いGKとそうでないGKの見極めという話が出たところで、カンタレリ・コッチがU-10～12年代のGKを見たとき、どんな観点でポイント発掘をしますか？

●聞き手：加藤好男

カンタレリ日本代表GKコーチに聞く！ その2

に難しい。個性がわかからない。個性がわかるには、何回か見て話を聞かない。でも、こんなことがあった。私はブラジルのリオ・デ・ジャネイロ出身だが、同世代にライバルである3人のGKがいた。ボタフォゴ、バスコ・ダ・ガマ、フルミネンセといったクラブのGKだ。フルミネンセの1人は常に注目されて、各年代の代表チームに選出された。川崎フロンターレや名古屋グランドパスエイトでGKコーチをしていたマサロもその1人だ。ただ、18～19歳のころになってフルミネンセの選手は成長が止まってしまった。それから先は私も含めて、他の2人がそれぞれプロで20年間、選手となった。最後は気持ちの強さだろう。

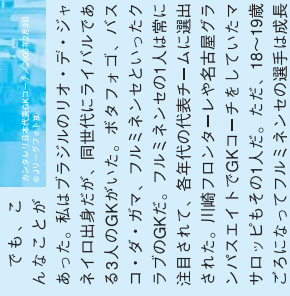
カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ



カンタレリはブラジルのリオ・デ・ジャネイロ出身。

可能性は誰にでもあると思う。何となくというかわからないが、成功するには環境と本人の努力、その2つがどちらか一方だけでは難しいだろう。——お忙しい中ありがとうございます。最後に日本の指導者へ一言。
カンタレリ：指導者は忍耐。すぐ結果がでなくても我慢が必要。ともに「忍」でがんばろう。

日本では幸運なことにリーグをはじめ世界各国の試合をテレビを通して見ることが可能である。若いGKは多くの試合を、ビデオがあるならたくさん集めるのも良いかもしれない。その中にレベルアップするためのヒントが多く含まれている。

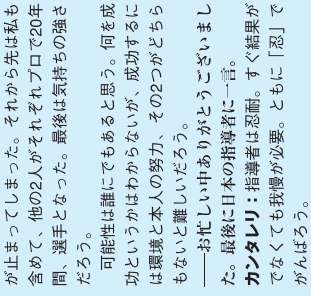


経験あるGKとそうでないGKとの違い

カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ

カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ

カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ



カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ

カンタレリ：大変難しい質問だ。U-12くらいだとその後、大きく変化すること、環境が重要になってくる。ひとつの視点で見方があること、勇気があること、バランスがとれていること、身体調整力。あとは、学ぶ気持ちがある。GKがやりたいという気持ち、強い子、意欲のない子は難しい。また、1日でセレクションなどで発掘するのはさ



テクニカル・ニュース Vol.6

- 発行人：田嶋幸三
 - 編集人：財団法人日本サッカー協会技術委員会・テクニカルハウス
 - 監修：財団法人日本サッカー協会技術委員会
 - 発行所：財団法人日本サッカー協会 〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目10番15号 日本サッカー協会ビル 電話 03-3830-2004（代表）
 - 発行日：2005年3月18日
-